

大阪府域内陸直下型地震動に対する建築設計用地震動および設計指針 2015 正誤表

2015/5/14

6/23

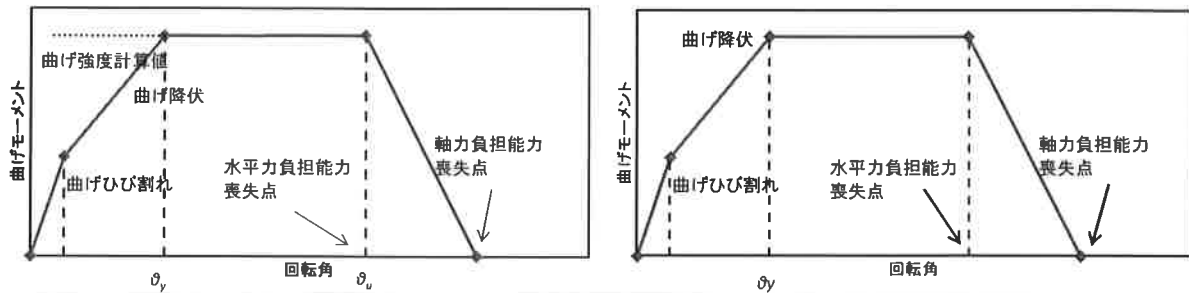
ページ	位置	誤	正
2.2-2	上から 9 行目	大阪市予測地震波も	大阪府市予測地震波も
2.3-40	表 2.3.2-4 中	Svmax	pSvmax
2.3-41	上から 5 行目	工学的基盤解放面	解放工学的基盤面
2.3-45	上から 4 行目	図 5.3.2	図 2.3.3-3
2.3-45	上から 7 行目	図 5.3.3	図 2.3.3-4
2.3-55	図・2.3.3-10 の縦軸 の名称の一部	aund,peak	vapeak
2.4-2	下から 6 行目	パルスタイプ設定用	フラットタイプ設定用
2.4-23	上から 4 行目	大阪市域内の 8 ゾーン	大阪市域外の 8 ゾーン
2.4-23	表 2.4-1 の D10NS 3C 設定値	120 → 120	120 → 150
2.4-28	上から 7 行目	最大値を以下示す	最大値を以下に示す
2.5-2	下から 6 行目	パルスタイプ設定用	フラットタイプ設定用
3.1-1	最終行	部材の復元力特性	部材の復元力特性の設定
3.1-10	(3.1.2-16)式	$wR_4 = (wR_{m4}, wR_{s4}, wR_{t4})$	$wR_4 = \min(wR_{m4}, wR_{s4}, wR_{t4})$
3.1-12	(3.1.2-18)式	$pY_4 = (pY_{ac4}, pY_{u4})$	$pY_4 = \min(pY_{ac4}, pY_{u4})$
3-1-28	上から 2 行目	(文献 3.1.12)	(文献 3.1.13)
3.1-29	(a) ②の 3 行目	最上階柱頭を含む階を除き、当該層全体において	最上階柱頭を含む階を除き、 <u>塑性化を許容する柱が存在する場合は、</u> 当該層全体において
3-1-29	下から 3 行目	(文献 3.1.13)	(文献 3.1.14)
3-1-34	上から 7 行目	(文献 3.1.16)	(文献 3.1.17)

3.1-34

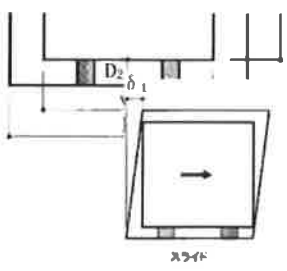
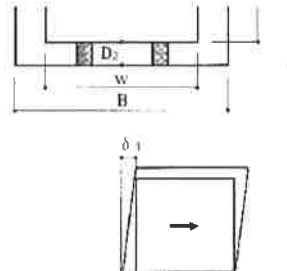
図 3.1.4-1

誤

正



3.1-36	下から3行目	最大応答せん断変形角	最大応答層間変形角
3.1-43	図 3.1.4-14 X 軸	$\theta_R + \theta_y$	$0.05 + \theta_y$
3.1-45	1行目, 4行目	魚骨モデル	魚骨形モデル
3.1-47	表 3.1.4-1		
3.1-48	10行目		
3.1-59	表 3.1.4-5 および 6		
3.2-31	式(3.2.2-14)	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{pl(0)}}{(1-n)}$	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{s(0)}}{(1-n)}$
3.2-31	式(3.2.2-15)	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{pl(0)}}{1 - \cos\left\{\frac{\pi}{2}(1-n)\right\}}$	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{s(0)}}{1 - \cos\left\{\frac{\pi}{2}(1-n)\right\}}$
3.2-31	下から5行目	$\theta_{pl(n)}$ : 軸力比 $n$ での破断限界 塑性回転角	$\theta_{s(n)}$ : 軸力比 $n$ での破断限界 塑性回転角
3.2-37	式(3.2.2-14)	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{pl(0)}}{(1-n)}$	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{s(0)}}{(1-n)}$
3.2-38	式(3.2.2-15)	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{pl(0)}}{1 - \cos\left\{\frac{\pi}{2}(1-n)\right\}}$	$\theta_{s(n)} = \frac{\theta_{s(0)}}{1 - \cos\left\{\frac{\pi}{2}(1-n)\right\}}$
3.2-92	図 3.2.4-20 キャプション	(b) 魚柱の復元力特性 (c) 魚ブレースの復元力特性	(b) 魚骨柱の復元力特性 (c) 魚骨ブレースの復元力特性
3.2-92	5行目	$M_{2max} = \Sigma(M_{pi} \times \varphi \times \beta)$	$M_{max} = \Sigma(M_{pi} \times \varphi \times \beta)$
3.2-92	13行目	$M_p = \Sigma(M_{pi} \times \beta)$	$M_{max} = \Sigma(M_{pi} \times \beta)$
3.4-110	図 3.4.10-24 凡例下から2行目	UMTb3A5NS1	UMTb2A5NS1

3.5-6	図 3.5.1-5		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>誤</p>  <p>ガラス板高さ : <math>w=1270.0\text{mm}</math> ガラス板幅 : <math>h=1720.0\text{mm}</math> <math>\delta_1 + \delta_z (= \Delta)</math></p> <p>スライド</p> <p>ロッキング・スライド</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>正</p>  <p>ガラス板高さ : <math>w=1270.0\text{mm}</math> ガラス板幅 : <math>h=1720.0\text{mm}</math></p> <p>スライド</p> <p>ロッキング・スライド</p> </div> </div>			
3.5-12	上から 2 行目	(3.5.2-3), (3.5.2-4)式となる.	(3.5.2-4), (3.5.2-5) となる.
3.5-22	下から 2 行目	(図 4(a)より	(図 3.5.3-1(a))より
4-22	図 4.4.2-2	(g)25 層,FA+,パルス, $\alpha_2$ 最小	(g)25 層,FA+,パルス, $\alpha_2$ 最大
4-26	本文中 2 行目	時刻的応答解析	時刻歴応答解析
4-70	図 4.8.1-6	第 4 象限の $P_2$	$F_2$